



人権参観日です

10月17日(木)に人権授業参観及び懇談会を予定しています。

授業は13:45から、学級懇談会は14:40から始めます。

偏見や差別のない、誰もが幸せに生きることができる社会の実現にむけ、自分自身を振り返りながら「わたし」が大切にしたいこと、

「わたし」にできることなどを考える機会にしたいと思います。授業での子どもたちの様子をしっかりと見ていただくことはもちろん、懇談会にも多数の参加をお待ちしています。

各学年の取り組み

それぞれの学年での授業の内容や懇談についてです。

1年生

舞台は、山の中の一本橋。いじわるなおおかみは、自分よりも小さいさぎやきつねが橋を渡ろうとすると、「自分が渡るから戻れ。」と追い返していました。しかし、自分よりも大きなくまと出会って引き下がろうとしたところ、くまはそっとおおかみを抱き上げて渡してあげます。おおかみの心の変化に共感しながら、親切にすることの大切さについて考えていきます。

懇談では

簡単なゲームを通して、普段の悩みに共感し合いながら、人権についてお話ができたと思います。普段感じている「これはどうなんだろう」「なんでかな」と感じていることを出し合い、1人で考えるのではなく、たくさんの方の意見を交流する中で新しい発見ができればうれしいと思います。ぜひご参加ください。

2年生

おだんご山のためきの学校に通うポンきち、タンざぶろう、ポンポ。ポンきちは、けんかも強く、勉強もできるタンざぶろうには頭があがりません。ある日、ポン吉は、たなの下に大事な太鼓が二つ落ちているのに気づきます。一つはタンざぶろうの太鼓、もう一つはポンポの太鼓でした。「なあんだ、ポンポのか。あいつは・・・」ポンきちの気持ちや行動から、相手によって態度を変えるおかしさに気づき、どうすればよかったのか、みんなて話し合いたいと思います。

懇談では

「じゃがいも」を使ったゲームを通して、楽しみながら、人の見方について考えます。ぜひご参加ください。

3年生

もしも自分の住んでいる村に「川向かいのとなりの村には行ってはいけない」という言い伝えがあったらどうするでしょうか。そして、その言い伝えがはるか昔から伝わっていたのだとしたら。3年生では、そんな言い伝えが伝わる二つの村の子どもたちの話を取り上げて、言い伝えを鵜呑みにするおかしさや、自分で知ろうとすることの大切さを考えていきたいと思っています。

懇談では

“世界は、ひとりの複数形でできている”このフレーズをお聞きになったことはありますか？えっ！これも人権学習なん？って思える時間に…したいです。

4年生

ある学級の一場面のお話です。教室である出来事が…。今や社会現象になっている“いじめ”。その構図や原因を考え、解決と防止のために、クラスという集団の中での関係を振り返りながら、対等で信頼できる仲間づくりの在り方について考えていきます。いじめの原因は、誰のせい？みんなで話し合っていきたいと思っています。

懇談では

「こんな考え方もあるんだ！」人には様々な考え方があります。カードトークを通して、いろいろな人の考えを聞きあいませんか？楽しい人権学習になればと思っています。

5年生

体が丈夫で働き者の小太郎が結婚の約束をします。誰もがその結婚を喜んでくれると思っていた小太郎。しかし「夫婦になっちゃいけねえだ」と両親に反対されます。反対の理由は「きつねつき」だから…わけのわからない理由で反対されたことに苦しむ小太郎。小太郎を通して、根拠のないうわさや迷信を信じるのがどうということになるのかを考えていきます。

懇談では

ふだん何気なく信じていることが、実は何もいわれがなかったり、根拠のないものだったりすることがあります。生活の中にある「なんでやる？」「よ〜く考えてみるとふしぎやな」を一緒に考えてみませんか。

6年生

周囲の人間から差別によるいじめを受けた過去を持つ万吉は、つらい経験をしながらもその差別とたたかう覚悟を持ちます。後に全国水平社を設立した際につくりあげた「水平社宣言」は、日本で初めての人権宣言といわれています。「人の世に熟あれ 人間に光あれ」の言葉には、誰に対するどんな思いや願いがこめられているのかを考えていきます。

懇談では

先入観で決めつけることなく「もしかしたら～なのかもしれない。」と多面的に見ることで、他者への理解が深まることがあります。そんな考えができれば、人間関係がよりよく変わるかもしれません。